

ARM WARS レポート

日本アームレスリング連盟 大村英樹

日時 2010年5月29日(土)

場所 イギリス ロンドン SENIホール(イベントホール)

王者 金井 義信(JPN) 世界ランキング9位(大会時)

対戦相手 ロン・バス(USA) 世界ランキング7位(大会時)

試合形式 6本勝負

大会レポート

今回の試合は昨年7月開催され王者となった ARM WARS ライトハンドタイトルマッチの防衛戦として1月にオファーを受け(この時点では対戦相手は候補としてロン・バスがあがっていましたが正式には決まっていなかった)金井選手の調整が始まりました。3月に正式にロン・バスと決まり。大会当日に向けさらにトレーニングに熱がはいったようです。

大会前日にロンドンへ到着しさっそくTVインタビューが行なわれ、先に挑戦者のロンがインタビューを行なっていました。インタビューでは金井選手の強さについてふれておりビデオ等で戦術を練ってきたと答えていました。金井選手はインタビューでは大会にむけハードトレーニングを重ね扱う重量も過去最高に達した(アーノルドプレス片腕 75キロやシーテッドハンマーカール片腕 65キロ等)のでパワー勝負なら自身があると答えました。

また試合会場は日本でいうところ東京国際展示場のようなイベントホールで開催され各格闘技の展示や大会などさまざまなイベントがありその中心ホールにて ARM WARS が約1,000人規模の観覧者(有料)で盛大に行なわれました。

また、ヨーロッパではユーロTVが約25ヶ国250万に向け放送されるようです。

日本では放送されないのが残念です。

試合内容

ニールピックアップのアナウンスで挑戦者ロン・バスから入場し、金井選手も後から華々しく入場。とても気合が入っておりました。観客が見守る中、1本目の試合がスタート。レディ・ゴアの瞬間上を攻めるロンに対し金井選手も上で攻めた手が外れストラップへ。ストラップが巻かれ再びレディ・ゴア。スタートの圧力に勝るロンが有利に進めパッドギリギリまで金井選手を倒し込むが金井選手がピンを許さない。なんとか倒そうと必死に力を入れ押し込むロンに対し、金井選手が踏ん張る状態が約30秒程つづき無理やりねじ込む形でロンがピンへ。

2本目。1本目同様ストラップへ、リスタート後やはりパッドギリギリまでロンが持っていく金井選手が耐える攻防。しかしロンの地力が落ち始め徐々に金井選手が反撃し始めるが、金井選手の肘がパッドの後ろ側に出てしまい。ルージングポジションファールでこの試合を落としてしまう。

3本目。先程同様ストラップ。リスタート後もやはり1本・2本目同様の展開へ。しかし金井選手の持久力が物をいい徐々にロンの腕を返し始める。ロンも必死に金井選手を倒そうとするあまりロンの肘がパットから外れてしまいロンにファール。リスタート後もロン優勢になるが徐々に金井選手が返し初めロンの手首を攻め（デットロックの状態）ついにロンをピンにつけるが先にロンの肘がパッドからおちてしまいロンの2ファールで金井選手の勝利。

4本目。1対2としたが金井選手の体力は限界を超えており場内の声援で持ち応えている状態。4本目も同様な展開になるがやはり金井選手は劣勢状態から信じられないパワーでロンの腕を担ぎ上げるように返し粘るロンを何度も振り倒すように攻めついにロンをピンし2対2のイーブンへ。

5本目。ストラップ戦。スタートはロンがセットアップの状態からサイド&バックプレッシャーで有利な展開になるが、パッド際で金井選手の親指の壁が生きている為、ピンまではもって行けず30秒程膠着状態がつづき徐々に金井選手のペースへ。4本目と同じ攻め方からロンはフック（かみ手）へ変更するが、この状態は金井選手も得意でありロンに肩ごと押し込まれようとするが耐えしのだ金井選手がロンをピンする。

ついに逆転3対2へ、これで金井選手の負けはなくなり王座防衛は成功。

6本目。スタートこそロンがもって行くがフックマッチになり金井選手のペースへ、パッドにつけたと思われた瞬間、金井選手のエルボーが出たとみられ1ファール・リスタート後も同様な展開になるが先程のファールに動揺を隠せない金井選手は力尽きてしまいロンのフックの前に敗れてしまう。

勝敗をイーブンにし王座こそ防衛はしたが終止ロンのペースで試合が行なわれ厳し試合だったと思われます。ロン曰く昨年マイケルが完敗していた為 USA 代表として負けるわけにはいかず死にものぐるいで対策してきたと試合後延べていました。もしロンが負けていれば次はジョンプルザンク（世界ランキング2位）が対戦相手に名乗りをあげていたようです。

試合後は終始大逆転の試合運びをした金井選手に対し観客席から割れんばかりの歓声と拍手がおこり、控室へ戻るさなかの写真撮影に追われていたのが印象的でした。

試合後もTVインタビューがあり試合を振り返る金井選手の表情からも安堵の表情が伺え今は次の対戦より休みたいと延べていたのが印象的でした。

ロン・バスのインタビューでは早くもリマッチの要求を主催者にしていたのが印象的であり昨年対戦したマイケル・トッド選手も打倒金井に向けリベンジを要求していました。

これで世界タイトルを防衛した金井選手は世界ランキングを1つ上げ8位となり今後の活躍がさらに期待されます。

日本のみならずアジアが誇る世界王者としてさらに防衛記録を伸ばしてもらいたいものです。

尚、主催者のニールピックアップより次回12月ラスベガスにてARM WARSを企画中とのことでしたので金井選手にはがんばってもらいたいと思います。

試合結果

金井義信 3勝 vs ロン・バス 3勝（引き分け）